

平成 29 年度第 2 回県と市町村との総合教育懇談会（概要）

日時 平成 29 年 11 月 6 日（月）

13 時から 15 時

場所 県庁議会棟 404・405 号会議室

【知事あいさつ】

- 「中山間地域における学び」に関する検討のまとめ、及び「ICT を活用した質の高い学び」に関する検討状況についてご報告する。
- 県教育行政の重要なテーマに位置付けている、県立高校「学びの改革」についても意見交換をいただく。
- 昨日のタウンミーティングで、4 校の高校生から意見を聞いた。
- 市町村においても、色々な意見を聞いていると思う。高校のありかたについて、率直にご意見をいただきたい。
- 総合 5 か年計画の中でも、学びが重要な柱。新しい意味での学びの県にしていきたいと考えている。

〈報告事項：ICT について〉

【佐久市】

- ICT 教育で解決できる課題も多くあるが、どのように学校現場の技術を向上させて、活用していこうと考えているか。

【県教委】

- 有識者等から意見をもらいながら、研究をし、広く中山間地域に広めたい。
- ICT に係る委員会により、パイロット校を立ち上げて検討してきた。それに基づいて作成したガイドブックの普及等を通して教員のスキルを上げていきたい。

【佐久市】

- 現場の教員が対応できるかどうか。スピード感としてはどれくらいを考えているか。

【県教委】

- ICT 機器の導入については、文科省から平成 32 年度までに機器整備、とされている。機器を整備し、研修をしながら有効活用ということになる。

【知事】

- 県政タウンミーティングで子どもと話した。学校の先生は色々な事をやりすぎている。分業をしていった方がいい。
- ICTも教員、中山間地域のコーディネーターも教員となると、教員がいくらいても足りない。県教育委員会としてどうするか、議論してほしい。

【箕輪町】

- 当町ではパイロット校を設置した。
- 教員の他にICT支援員を置かないと難しい。機械の専門家ではなく、授業の専門家が必要。

【青木村】

- 同じくパイロット校となっている小学校では、メディアコーディネーターという専門家をお願いしており、いないと厳しい。
- 教員は3、4年で異動してしまう。忙しい中で研修をどうするか。年間計画に、一日に5分程度やる「ちょこっと研修」を位置付けておくとよいことが分かった。

【須坂市】

- 全小中学校の学級に電子黒板を入れて授業をしている。パイロット校には特色ある教員配置で教員を配置してもらっている。とても効果がある。
- パイロット校になってない学校でもスタートしたが、使い方に相当差がある。
- 探究的な学びにICTを活用できればよいが、教員の研修を重ねることが大切ではないか。
- OCSを活用して、定年退職した地域の方の力を借りようと考えている。

【茅野市】

- ICTに限らず、かつてのOHP等視聴覚機器の導入と使用を振り返ってみると、たいへん時間がかかってきた経過がある。腰を据えて考えないと、後追いになってしまう。機器はあるが、使用されないことが心配される。
- ICT教育には、今ある授業の中で利用、プログラミング教育の中で利用、特別支援学級の子どもたちが利用、の3つの方向性がある。
- 当市ではプログラミング教育に重点を置きたいが、アプリの選択や授業の設計のために専門家が必要。機器の使用は何とかなる。茅野市内の学校で3年前から東京理科大の教員を招いてプログラミング教育を試験的に実施してきている。専門家に支援してもらった方がうまくいく。

【長野市】

- 長野市は、全ての学校で実施するのに膨大な時間がかかる。OHP にするだけで大変な時間がかかった。
- 実際に、大型投影機がどの程度使われているのか。まだ黒板で授業を進めている教員が多い。機械があっても、研究して一緒に進めていける専門家が必要。
- 退職者や経験者が学校に入ってこられるように考えていきたい。

〈報告事項：中山間地域〉

【長野市】

- 長野市では中山間地域について、活力ある学校づくり検討委員会を作っている。学校は残したいが、子どもの発達段階に応じた教育環境が必要。
- 今までの学校の枠を超えて、色々な学校の形をつくっていく必要がある。異学年による学習習慣等を考えていかないと、学校がなくなってしまう。

【教育長】

- ICT 教育については、ICT 支援員がつかないとうまくいかない。平成 32 年度までに小中学校も教員のスキルを上げていく。
- 中山間地域においては、色々な方法を使ってやっていくことで、これからの新しい学びに変わっていくことにもなる。

【知事】

- 中山間地域の学びについては、議論した結果をあえて問題提起してほしい。
- ICT 教育に協力したい企業はたくさんある。民間の力、地域と学校とをどう結びつけるか。県の役割になってくる。
- 自然教育の中で山村留学、やまほいくはぜひやってほしい。県と市町村でどう協力してやるのか、具体的に踏み込んでほしい。
- 中山間地域の環境をポジティブに捉え、先端的な学びの場にしていくこと。
- 学校施設の活用については、市町村からアイデアをいただきたい。

〈議題：県立高校「学びの改革」〉

【教育長】

- 県立高校が取り残されてしまうのではないかと危機感を感じている。都市圏の学校は敏感に時代を察知している。
- 未来を担う子どもたちの学びにとっては、小、中、高、大学までが魅力のある場として整備されることが必要と考えている。

(塩野課長 説明)

【佐久市】

- 地方教育費調査によると、長野県の高校の学校教育費は他の学校種と比べて大きく減っている。問題意識として共有をしてほしい。

【長野市】

- 夢に挑戦する学びについては、多くの方の理解を得ながら、早急に進めてもらいたい。

【川上村】

- 全県の教育も考えなければならないが、地域性が重要。地域にあった人材づくりをしてほしい。
- ローカルポリシーを作って、地域の特色を活かした人材を育ててほしい。

【長和町】

- 町村に高校がないので、高校に通うのに保護者の経済的負担が大きい。通学費を手厚く出している。月に3000～10000円。
- 高校の内容も大切だが、中山間地域の町村は、高校に行くための支援をしてもらわないと大変。

【青木村】

- 上田高校のSGHの学びの場として青木村を取り上げていただいている。それに関連して青木村出身の高校生が作ったレポートを読ませてもらった。地域について理解を深めることができている。
- すでに実績が表れている。この方向を、自信を持って進めて頂きたい。

【須坂市】

- 大学入試が変わろうとしている中での対応が大変な中で、信州学をどう勉強していくか。先生方の中には、限界を感じている方もいる。
- 須坂市と市内の3高校は連携協定を結んでいる。
- 市町村がもっと高校生に配慮して学びの場を提供することで、高校生がその地域で学ぶことはできるのではないか。

(塩野課長 動画説明)

【長野市】

- 新しい時代に合わせた形になっているが、前提として礼儀、対人関係がしっかりできていないと進まない。高校においてどうしていくのか。
- お金をかけても最終的に都会に出て行ってしまう。郷土のすばらしさ、地域のきずなをどう育てていくか。地元に戻って貢献できるような人間的教育をどうしていくか。

【塩尻市】

- 受験教育が社会人教育に替わっていくとしたら、良いことだと思う。
- 旧 12 通学区の協議会で議論になるのか。高校が数校しかないところもある。現在の 4 通学区の方がよいのではないか。

【教育長】

- 通学区で検討すると同時に、全県的にも進めなくてはならない。地域をもう少し拡大した方がよいのかは検討したいが、まずは旧 12 通学区から始めたい。

【知事】

- 旧 12 通学区だけで解決できないことは、地域拡大するなりして話していただければと思う。広域的な話と小規模な話は両面的に考えてほしい。
- 礼儀、挨拶については、長野県においては課題だと思っている。
- 高校生は地域のことを学びたい、地域の人話を聞きたいと考えている。もう少し地域と学校が連携をして、地域を直接知ってもらう機会を増やせば変わっていくのでは。

【教育長】

- 小、中、高連続して子どもを育てていけないといけない。
- 小中学校における地域の学習は、長野県が最も得意としてやってきた。発展形が信州学。地域を知るからこそ愛着が生まれる。
- 学校は地域にとって敷居が高い。その敷居をなくして、開かれた学校を作っていくことが大切。

【青木村】

- 原山教育長の学校訪問に感服した。
- 小中学校の発達障がいの子どもの 6 割を、県立高校が受け入れている。
- 資料には特別支援教育についても記載しているが、ベースとして考えていく必要があるのでは。

- コミュニケーションの障がいがあるが 8 割だと思ふ。コミュニケーション力の向上をどこかに記載してほしい。

【茅野市】

- 多様な学びの保障については素晴らしいと思ふ。
- 高校 1 年の段階で、転校・転入学をもっと流動的にしてもよいのでは。選択の幅がもっとあっていい。
- 高校生がいきいきするのが地域の特色になる。
- アメリカのある市では、高校で様々なコースを選べる。その中で少しずつ大学でのコース選択をしている。

【長野市】

- どこの高校に行きたいかではなく、何を学びたいか。
- 小さい時から、社会性や地域でのあり方を考えていってほしい。

【角田次長】

- 今後フレキシブルに対応する、という前提で、方向性にご賛同いただけるか・

(賛同)

【知事】

- 地域にあった人材づくりは重要。協議会の場を活用して意見を地域ごとに集約してほしい。
- 通学費用は大変な負担。学校を集約するに際しては、その点も検討してほしい。
- 発達障害については、青木村と同じ考え。夢にどう挑戦するかは、子どもたちの状況を考えて提案していく必要がある。教科以外にも子どもの可能性を見出して、地域でサポートすることを明確に出すこと。夢をきめ細かく拾い上げて支援すること。
- 佐久市から提示された資料は分析する必要がある。

【教育長】

- 市町村長、市町村教育長に高校改革の具体像を示したのは初めて。
- 学びの多様性、具体的な学びの姿をもっと自由に描いていい。
- 「県立高校「学びの改革 実施方針」策定に向けて」を 11 月中旬に示す。
- それを受けて、様々な方にご意見をいただいて、長野県の高校教育が変わっていくということをしめしていきたい。